





季刊 新年号 <sup>平成27年1月</sup> Vol.5

特集

一ノ鳥居 別完宮戦二規 御茶壺奉献奉告祭天正の大茶湯を偲ぶ

馬居 閑院宮載仁親王御筆「天満宮」の扁額 奉掲御茶壺奉献奉告祭 献茶祭を斎行

北野に御鎮座致しました。 当宮は御祭神に 神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年(九四七)六月九日、 菅原道真公 (菅公)をお祀りした全国の天満宮・天神社約一万二千社の宗祀 御神託により平安京の乾の地にあたる (総本社) の神社です。

さらに朝廷・皇室の崇敬を受け二十二社に加列、 天徳三年 (九五九)右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満宮天神」 臣下として初めて官幣中社に列格され国家鎮護・皇城鎮護の神として崇めら の神号を賜

寬弘元年 (100四)、 一條天皇がはじめて行幸されるに及び、 以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、 れました。

崇敬を受けております。 将軍家や有力大名の

農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されています。 文道大祖・風月本主と崇められた菅公は、 和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、 学問をはじめ芸能

生きています。 般に至るまで「天神さま」と呼ばれ親しまれてきました。 菅公は、千有余年の長い歴史の中で、 人々の心の支えとなる神として、 菅公が生涯一貫された「誠の心」 各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、 は、 日本人の感性として現在にも 庶民

り国宝に指定されています。 現在の御社殿は慶長十二年 菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、 (一六〇七) 御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、 豊臣秀吉公の遺命を受けた豊臣秀頼公の造営で、 八棟造という豪壮な建築様式を誇 日本文化 の 礎、 学問の神・ 天

神信仰として篤く信仰されています。 【シンボルマーク】



三光門 (三辰信仰) 徴である一の鳥居を描き、 極星と捉えた星の軌道と、 の地・天門をイメージし、 から星梅鉢を北 星欠けの 北野天満 神社の象

に位置する北野

表紙写真説明 初詣参拝者で賑わう御本殿前





し上げます。 運の隆昌と氏子崇敬者皆様方のご健勝とご多幸を衷心よりお祈り申 頭にあたり、 謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄を言祝ぎ奉り、 国

輝く一ページとなりましたこと感謝御礼申し上げます。 に斎行されました。誠に感激の極みにて、当宮と茶文化の歴史上、 宗室家元、千敬史様、ご宗家三世代揃ってのご奉仕により厳粛盛大 旧臘、天正の大茶湯をしのぶ献茶祭が、裏千家千玄室大宗匠、千

七年さのと末

な文化発信を奨めて参る所存でございます。 の神社として、尚一層の教学的活動、芸能文化、 神社会館の建築に取り掛かり、 格的な庭園整備を計画致しております。さらに楼門下ではいよいよ ります。 祭に向け、一昨年より平成の大改修、 西広場に移築、 さて、 今後とも、ご神縁深き皆様には天神信仰の発揚と北野天満宮護 北野天満宮は平成三十九年に行われる千百二十五年半萬燈 御祭神菅原道真公所縁の庭園を再現すべく、 国宝北野天神縁起絵巻に描かれた景観を蘇らせる本 天神信仰発祥の地、 境内整備工事に着手致してお 茶道文化等、 全国天満宮宗祀 紅梅殿を境内 様々

平成二十七年乙未元旦

格別なるご理解、ご協力の程お願い申し上げます。

事務員

開運

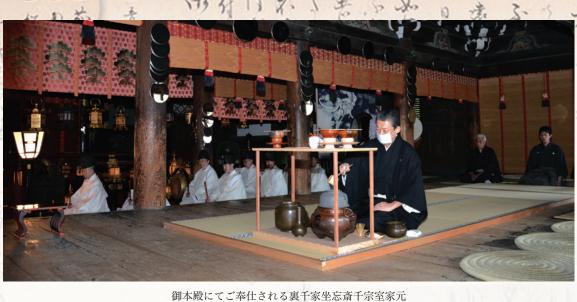


北野天満宫 宫司 橘 重十九

> 巫出 女仕

権宮司 権禰宜 宮 禰 名誉宮司 宜

上湯 田 白 東 黒 松 嶋 玉 小 竹 野 恵 東 黒 大 大 路 十 東 忠 靖 宗 和 東 東 弘 績 文 浩 雄 典 至 白東川 庄村 上田 伊田山上藤淵本嶌 中加神松梶加橘野藤原吉藤 彩真鎮 和義美晃正男 真幸 道迪十季嗣夫九嗣



誇り、 神とするため、 恵まれた宮です。 なっています。 北野 特に元旦には必ず家族で 秋の御土居の紅葉もことの 天満宮 は、 幼い頃から折に触 また学問 早 · 春 0 神 0 苑 神様 円に 詣りするの n ほ 祖父母 か美 ての菅原 0 魁として 連れら が我家の慣例に 道真公をご祭 豊かな自然に 梅 れ てお詣 が ?咲き

の湯が、 修されました。 深く結ばれ、 者が参加し、これまでは僧侶、武将、豪商等に限られていた茶 裏千家、 今井宗久といった当時の名だたる茶頭をはじめ、 吉公によって催された「北野大茶の湯」 この大茶の湯を契機として天満宮と茶道は殊のほ 天正十五年 (一五八七年) 十月一 各階層にまで広がるきっかけとなりました。 武者小路千家、 明治十三年一月十三日には第一回の献茶式が厳 その後は今日まで、 藪内家、 久田家、 日に関白太政大臣 毎年十二月一日に表千 には、 堀内家の六家が輪 千利休、 多くの茶の湯 津田宗及、 豊臣秀 か 縁



平成十四年、裏千家十六代家元継承。師のもとで参禅。 祖順老師没後、 臨済宗大徳寺管長・僧堂師家 祖順老師のもとで参禅得度 同志社大学卒業。 妙心寺 盛永宗興老



列立される千宗室家元・千玄室大宗匠・千敬史氏ら



上七軒西方尼寺に残る千利休居士が用いた井戸





当家では、

この献茶式には家族が揃って参列させ

7

7

そし

て各家が

昨年

の十二月 り、

日には、

家元を継承して二回

目

献

私も幼い

頃から参列し多くの思

11

出

があ ただ

台宗真盛宗の西方尼寺に現存しています。 茶式をご奉仕させていただきました。 大茶の湯の折に利休が使用した井戸が、 天満 宮 0 東

側

0

天

様々な色の花を付けることで有名です。 この寺には、利休手植えの五色八重散椿 \$ あ り、 本 0 椿

ての名誉師範の称号を受け、 道を熱心 仙尼 七世 が出家し に裏千家五代不休斎常叟の娘 に指導しています。 光善尼 て三十世住職となります。 は裏千家十四代淡々斎宗匠から裏千家で初 その後、 (六代六閑斎泰叟の妹) 代々の住職が裏千家茶 そのご縁もあって、 祖

妓はこの寺で日頃から茶道を習っています。 舞妓が艶やかな着物姿で神苑において野点席を担当 日である二月二十五日には毎年梅花祭が催されますが、 でも最古の歴史を誇る上七軒の中にあり、 の京都の風物詩の この西 方尼寺は、 一つにもなっています。 天満宮に隣接 ており、 上七 道真公の祥月命 京都 軒 の芸 Ŧi. 花 妓 芸妓 街 初春 0 中

われる井戸 て茶道愛好者たちで賑わっています。 また神苑には、 この た由 ように北野天満宮では今も脈々と茶道文化 緒ある茶席も残されており、 ていただきたいと切に願っています。 野 があり、 今後ともこの茶道文化の発信基地としての役割 天満宮の益 北野大茶の湯の折に細川 十二代又玅斎ゆ 々の弥栄を祈念致しております かりの松向 毎月定例の茶会が催 三斎 文末になりま が 軒 使 が受け や明 つ 月舎と たと 継 を から



裏千家ご宗家揃い献茶祭斎行



# 「天正の縁」を今に伝える献茶 厳かに斎

D



ら献茶祭保存会役員による口切式

せた。 た。 野大茶湯」を縁とする献茶祭が十二月一日午前十時から本 況となり、 殿において裏千家千宗室家元のご奉仕により、 ほか主要な所に設けられた六つの茶席はどこも超満員の盛 会役員を始め茶道関係者ら多数参列の下、 四百二十余年前、 あいにくの雨模様にもかかわらず、 北野天満宮とお茶との縁の深さを改めて感じさ 豊臣秀吉公が催した歴史上名高 社務所を始め境内 厳かに斎行され 献茶祭保存 北

### 太閤 ゆ か h の 北野大茶湯

されている。 に及ぶ三百五十年記念の「昭和の大茶湯」 は大茶湯三百年記念献茶式が、 席が造られた」と綴っているほどの規模の大きさだった。 野経堂から松梅院の近傍まで一間の空所もなく八百余の茶 将が集い、吉田神社の祠官吉田兼見が『兼見卿記』の中で「北 集めて開いた大茶会。数々の名器が展観され、名だたる武 秀吉公が千利休・今井宗久らとともに亭主を務め、 その名残として境内には太閤井戸が残り、 北野大茶湯」 は、 天正十五年 また昭和十 (一五八七) 十月一 が大々的に開催 年には五日間 明治十九年に 万民を 日



御本殿へと進む各生産地からの御茶壺道中行列



### 掛けられるほど当宮と茶は密接な関係にあり、 であり、 事 境内にある明月舎・松向軒の二つの茶室では毎月月釜が

伝統を引き継いで斎行される献茶祭は当宮独特のもの

そうした故

「北野の献茶祭」として知られている。

### 古式ゆかしく 御 茶壺奉 献奉告祭 口 切 式

壺奉献奉告祭が十一月二十六日午前十一時から本殿で斎行 献茶祭に使用する抹茶の原料となる碾茶を奉献する御茶

された。

ていた。 道や本殿前には多くの参拝者が集まり、 きの茶摘み娘を先頭に御茶壺行列を組んで運ばれた。 から本殿までの道中を、 茶壺に詰められた碾茶は、 倉・八幡・京都・山城)の茶生産者と茶業関係者によって 慣例により山城六郷 (木幡・宇治・菟道・伏見桃山・小 紺の着物・姉さんかぶりに茜たす 産地毎に唐櫃に納め、 この行列を見守っ 一ノ鳥居 表参

行されるよう祈った。 や茶商・ 引き続き口切式が行われ、 次に茶壺を神前に供えて奉告祭が斎行され、 献茶祭保存会役員が玉串拝礼し、 献茶祭保存会の役員が古式に 献茶祭が無事斎 参列の茶師

はのからな

に盛り上げて、

一々丁寧に検知が行われた。

碾茶は口切式の後、

抹茶にされ、

献茶祭を迎えた。

のっとり次々茶壺の口を切り、

色鮮やかな碾茶を茶舟の上



碾茶を検知する宰領渡辺孝史氏とそれを見守る裏千家村上利行氏



御茶壺清祓の儀

# 坐忘斎千宗室家元によるお点前

坐忘斎千宗室家元が御祭神に献上する濃茶・薄茶二盌を謹点、続いて鵬雲斎千玄室大宗匠が豊太閤を祀る豊国を謹点、続いて鵬雲斎千玄室大宗匠が豊太閤を祀る豊国での神前奉仕となった。

守った。
中の人が西廻廊に設けられた中継画面で献茶祭の模様を見る人が西廻廊に設けられた中継画面で献茶祭の模様を見る人が西廻廊に設けられた中継画面で献茶祭の模様を見る人が西廻廊に設けられた中継画面で献茶祭の模様を見る人が西廻廊に設けられた中継画面で献茶祭の模様を見るの人が西廻廊に設けられた中継画面で献茶祭の模様を見るの人が西廻廊に設けられた中継画面で献茶祭の模様を見るの人が西廻廊に関する。

# 併せて豊国神社にて献茶祭斎行

氏)・松向軒(松向軒保存会)・上七軒歌舞練場(上七軒、引き続き祭典を斎行した。 本殿での献茶祭の後、千宗室家元らは豊国神社へ移動され、引き続き祭典を斎行した。

京るというから行出

お茶屋組合・上七軒芸妓組合)・西方尼寺

(善田好日庵氏)



豊国神社献茶祭



た。

者小路千家・

在洛

の四家元・二宗匠(藪内家・表千家・裏千家・武

堀内家・久田家)が六年ごとの輪番で務め

今年は裏千家家元のご奉仕となっ

神前での献茶祭 裏千家家元三代揃ってご奉

仕

られる北野の献茶祭。

豊国神社へ向かう裏千家ご宗家の方々



上七軒芸舞妓によるお点前





日大賑わいとなった。

は紅葉狩りの参拝者と一碗を楽しむ和服姿の女性たちで終

は下がらず、寒さをあまり感じさせない一日となり、

境内

馬所には菓匠会による恒例の和菓子の展観などが行われた。

雨が降ったり止んだりのあいにくの空模様だったが気温

に副席が設置され、さらに三光門前西広場にはそば席、

絵

### 献茶祭に協賛 京の師走」を菓題に珠玉の一 菓匠会」 が銘菓を展示

例行事。 会」による飾り菓子の展示会は、 同会は、 絵馬所で行われた京都の老舗和菓子店で組織する 江戸時代の禁裏御用達「上菓子仲間」 この献茶祭に協賛する恒 の流 「菓匠 れを

店が選りすぐりの一品を出展している。

組む二十店で組織されており、

毎年統

一の菓題によって各

菓子とはおもえない」などとささやき合いながら一点一点 まさに芸術品といったところ。訪れた人たちは「すごい」「お 付けられた和菓子は、 けた京の師走をイメージする和菓子を展示した。 する菓匠会員に質問を投げかけたりしていた。 食い入るように見つめ、 大路を繋ぐ」「年の瀬」「初雪」など、思い思い 今年の菓題である「京の師走」に基づき、各店が いずれも色合い・形とも素晴らしく カメラに収めたり羽織袴姿で案内 器に盛り の題をつ 「賑わう



華やかな上七軒歌舞会の副席 (上七軒歌舞練場)







「菓匠会」による飾り菓子の展示 (絵馬所)



大正

年に

奉

納 3

1

たこ

0

扁

額

か 奉揭 か 3 5 Vi n 本 0 殿 青空の 復 で 修復奉告 作 業 が h 天 祭を斎 満宮 + 行、 一月 0) ح 文 五

日

板社 重さ約五百六十十口 皆 の で 縦 よって鳥居とともに 大正十 年当宮の 崇敬団 奉納され 四 ハメー 体、 梅 1 風

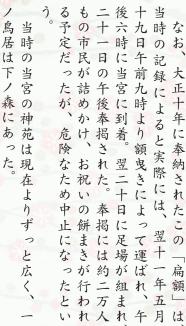
軍 を 揮毫されたことでも知ら で 扁額の背文字にはある「天満宮」は 閑 院宮 代 は の 靖國 当 仁 一神社 げ 親王 一記念館 九 は ーニ は 一御筆 襲親 てきた。 一代東 てきた宮家 大閑 れる。 王家として 勲 院 と 山 位宮 遊 記功 天皇 就 載 3 館 仁 であ れ級親 0 万皇子 す の て元 王 い帥が

7

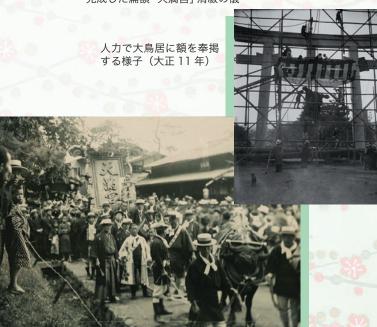
陸

名

た多数 満宮 業を 解 < が z 体 な L わ 0) か めて 1) 0) + 日 の てきたため、 た。 市民 ン車 扁 0) いた。 力直 額 取 1 を h p が の 取 つ 1 揭 使 h っ け p 出 ル 0 0 金箔を施すなどして修 今年 に 7 作 よっ 業 け 5 時 は、 八月鳥居から下ろし、 鳥居 間 れると、 て どよ さびや腐食が激 から 午 0) か 前 めき h + 見守 h で 中 0) 時 つ に わ ۲ Ł 7 n 3 復 拍い天たか 作



完成した扁額「天満宮」清祓の儀



額を掲げ御<mark>前通</mark>りを進む行列(大正 11 年)



新たに発見された元字の掛け軸



修復された扁額「天満宮」

天



### 1月2日

### 筆始祭並びに「天満書」奉納

午前9時から本殿で御遺愛の硯などを整え、書道 の神でもあった菅公の御神徳を偲び、この日から神 前書き初め「天満書」を始めることを奉告する。

「天満書」は、絵馬所で4日まで行われ、子ども たちが書道の上達を願って力強く書き初めをし、書 いた作品を奉納する。これに家庭で書き、奉納され た作品を加え、例年約4,000点が23日午後1時から 31日午後3時まで西廻廊および絵馬所で展示され、 展示初日に書家の先生方によって審査が行われる。





### 1月2日まで

### 華道家元池坊京都支部献花展

元旦から神楽殿で開催され、立花・生 花・自由花の形で生けられた正月らしい 生け花が初詣参拝者の目を楽しませる。



### 1月3日

新春奉納狂言

新春奉納狂言が午後1時 から神楽殿で、猿楽会と茂 山良暢氏によって行われる。



### 1月5日

そろばんはじき初め

午前10時から絵馬所で行われ、小学生ら約400人がそろばんの上達を願ってはじき初めをする。長さ5.5メートル、四百桁もあるジャンボそろばんが毎年話題となる。





1月25日 初天神

一年で最初の縁日であり、表参道を始め境内周辺は、多くの露店が並びひときわにぎわう。すでに受験シーズンに入っており、本殿前や牛舎前は若者の行列ができる。



### 1月5日まで 楼門に西陣糸人形

西陣のつくりもの人形「糸人形」が楼門内部左右に展示される。西陣織工業組合の依頼により毛利ゆき子西陣和装学院学長の監修指導のもと同学院と西陣連合青年会が毎年テーマを変えて制作する。



会員が調製した「梅花の御供」「紙立」という2種の特殊神饌が奉饌される。また、貞明皇后御参拝の古例により宮内庁京都事務所長が皇后陛下の御代拝として参向される。

境内では美しく咲いた梅花の下、上七軒歌舞会の女将・芸舞妓らの奉仕により 「梅花祭野点大茶湯」も行われる。公開 中の梅苑を含め境内は参拝者で大賑わいとなる。



### 2月3日

### 節分祭と追儺式

午前10時から本殿で節分祭を斎行し、一年間の 災厄を祓った後、午後1時から神楽殿で茂山千五郎 社中によって伝統の「北野追儺狂言」が奉納される。 上七軒歌舞会の芸舞妓による日本舞踊の奉納もあり、 最後に出演の狂言師と芸舞妓が神楽殿の上から威勢 よく豆をまく。

当宮は京都の「乾(北西)の隅」の守り神として 創建されて以来、災難除け・厄除けの社としても篤 い信仰があり、節分には「四方詣り」と称して当宮 など四社寺を参拝して無病息災を祈る習慣が根付い ている。



〈主催〉京都大学「モノ学・感覚価値研究会」〈共催〉北野天満宮

# 三月七日から十五日 当宮で「悲とアニマ」展

大震災四年目の十一日には鎮魂の茶会と能舞

近藤 髙弘

山本 上林壮一郎 健史 展示出品者

渡坪邊

淳司 文修子二

丸谷 和史 松生 歩

三宅 一樹 スティーヴン・ギル

他

岡田

【監修】鎌田 東二 【企画】秋丸 知貴

平成二十七年年三月七日(土)~十五日(日)

悲とアニマ」展

【移動舞台車・鎮魂能舞等】

やなぎみわ

河村

博重

鎌田

東二

他

『日本大震災の「悲しみ」を生きる力に

京

都大学「モノ学・感覚価

値研究会」は、

三月



クト」において制作したものを用いる。 る造形美術家の近藤髙弘氏が「命のウツワプロジェ 茶碗は、被災地に二千点以上の陶器を寄贈してい 舞などの上演を計画している。 で被災地に対する服喪と再生を祈念して行われる。 「鎮魂茶会」は三月十一日の午後一時から三時ま

一日には、鎮魂茶会や移動舞台車上での鎮魂能

災地と世界に対する未来の希望を祈念して行われ の未来研究センター教授)の共演で行われる。 芸術大学客員教授)と本展監修者で神道ソングラ る。移動舞台車は、やなぎみわ氏(現代美術作家・ 場に移動舞台車を配置し、ライトアップの中、被 イターの肩書も持つ鎌田東二氏(京都大学こころ 重氏(観世流能楽師・重要無形文化財・京都造形 京都造形芸術大学教授)の作品。能舞は、河村博 「鎮魂能舞」は、 雨天の場合は順延される。 同六時から七時の間、 当宮駐車

> 開催に寄せて 天神 信 仰 ح 悲とアニマ」 展

京都大学こころの未来研究センター教授

鎌田 東二

た。 皇は「山背国」を「山城国」に改名する詔を出し「平 霊信仰」も「鎮護」と「平安」には不可欠の信仰であっ でもあった。「皇城鎮護」とその「平安」が祈られ、「御 り、ものづくりの都であったが、同時に「祈りの都」 安京」に遷都した。この「平安京」は水の都であ 延曆十三年(西曆七九四)十一月八日、桓武天

ことを指摘された。また鎮魂には支配者の鎮魂と という神格の基層をなすのは、北野の地に「火雷神」 学者が「天満大自在天神」とか「太政威徳天」と 摂籙神、 が祀られていたことにあった。そこに王城守護神、 神」していく天神信仰形成過程があったが、「天神\_ かの神号を付与された「天神」という「神」に「成 真(八四五~九〇三年)という優れた政治家・文人・ 対照があることを指摘された。 分たちのパワーにして幸せを呼び込むものという れることであるが、民衆の御霊信仰はその力を自 民衆の鎮魂の二種があり、支配者の御霊信仰は恐 があり、北野天神信仰にはそれらが重層している つ神の信仰」と「菅原道真公の信仰」という三種 中 国や朝鮮半島の「天神信仰」と日本古来の「天 上田正昭京都大学名誉教授は「天神信仰」には 学問神などの神格が重層的に付加され織 中世には、菅原道

の初日に合わせた。期は「京都国際現4 のやなぎみわ氏が台湾で製作した移動舞台車(ス 震災が起きた三月十一日(水)には、造形美術家 重なって天神信仰を独自の厚みのあるものとした。 ていた心性が御霊信仰や皇城鎮護や平安の希求と マンス(能舞 テージトレーラー)にてさまざまな芸能・パフォー の近藤髙弘氏主宰の「鎮魂茶会」とアーティスト (土) から同十五日 楽・鎌田東二や、 その北野天満宮の地で、平成二十七年三月七日 ギーの中に「ちはやぶる神」の神威を感じとつ 悲とアニマ展」を開催する運びとなった。 「京都国際現代芸術祭 2015 PARASOPHIA」 茶室などを予定している。また、 「天神」:舞・観世流能楽師河村博重 (日) までの九日間、許しをえ 京都伝統文化の森推進協議会 雷と 会場は北野天満宮社務所、 いう自 然の恐るべきエネ 東日本大 神 会

0

於:横浜トリエンナーレ2014 新港ピア会場

やなぎみわ 「日輪の翼」のための移動舞台車

させていただきたいと申請したのか、 悲とアニマ」展をなぜ北野天満宮で実施 その企画趣

原道真公をお祀りする神社である。だが、 旨を簡単に述べてみたい。 して菅原道真公をお祀りする以前から北野の地に いうまでもなく、北野天満宮は御祭神として菅 人神と

> のは 上に人神としての菅原 (信仰) が加わった。 あっ 道真公への鎮魂と顕彰と その自然神信 仰

その後 えに、わたしたちはこの展覧会を北野天満宮で開信仰こそが北野天満宮の信仰の本質だと思うがゆ 催したいと考えた。 霊性)」に接続したいという悲願を持っている。こ の「悲」を、生きる力や霊性=アニマに転換する た永遠のいのちに昇華していく「アニマ(霊魂・ 東日本大震災を機に、その「悲」を、 力な北野天神信仰を生み出していったのである。 公への思慕と讃嘆と鎮魂が接木されて定着し、 の驚異と恵みの表裏一体)の基盤の上に菅原道 いていた天神信仰、 土壌と秘密があった。 つまり菅原道真という「人」 わたしたちの「悲とアニマ」展は、 「神」になったのは、 すなわち雷と稲作豊穣 もともとこの土地に息 北野という場 が 「怨霊」になり、 直接的には 生死を越え %所にそ (自然 強 真 ゔ

る。 覧会+シンポジウム+パフォーマンス)を開 げてき、 感覚価値研究」として学問的に追求してきた。「も おける日本的感受性の意義や有効性を「モノ学・ 覚価値を検証する」研究会として発足し、 あはれから貫流する日本文明のモノ的創造力と感 興会科学研究費助成事業「モノ学の構築 会」は、二〇〇六年度~二〇〇九年度日本学術 ののあはれ」から「もののけ」までの「モノ」観 や美意識の変遷の研究と表現を試み、 二〇〇八年秋から芸術領域のアート分科会が発足 開催主催者の京都大学「モノ学・感覚価 、五年間さまざまな研究・表現活動を積み上日本的感受性の芸術的表現を理論や実践で探 その集大成として「悲とアニマ」展 その過程で 現代に もの 値 研 (展 す 0 振 究

被害、 芸能による鎮魂供養の試みとして、 発している。このような現状の中で、 昨 御嶽山噴火など、 東日本大震災、 国内外で天災も人災も多近畿大水害、各所の台風 一つの芸術 派も宗

> 辺の大悲・大慈への普遍的な祈りと鎮魂を実現し、教の違いも超える、「悲とアニマ」という広大無 死者への供養と生の活力としたい。

で、 をご理解いただき、ご参会いただきたい。 現を社会発信しようとするものである。 歌舞伎踊を演じたという来歴を念頭に置 年に催した「北野大茶湯」や出雲の阿国 魂茶会」と「鎮魂能舞」は、 悲とアニマ」展における「3・11」 平安京・京都の地から伝統に基づく新たな表舛伎踊を演じたという来歴を念頭に置いたもの や出雲の阿国が初めて、豊臣秀吉が一五八七 画趣旨



社務所 大広間・前室(松生歩絵画作品)

|啓発紙芝居など)を上演する予定である。

### 鎌田東二(かまたとうじ)先生 略歴



博士 (筑波大学)。宗教哲学· 研究科社会環境生命科学専攻博 同大学院文学研究科博士課程修 れ。國學院大學文学部哲学科卒、 士課程単位取得満期退学。文学 了。岡山大学大学院医歯学総合 一九五一年徳島県阿南市生ま

waza-sophia.la.coocan.jp/ 文化の森推進協議会会長。身心変容技法研究会代表(http:// センター教授。NPO法人東京自由大学理事長。 石笛・横笛・法螺貝奏者。 民俗学・日本思想史・比較文明学専攻。神道ソングライター。 現在、京都大学こころの未来研究 京都伝統

### 斎行された祭典・ 十月~十二月)

### か に 條 天皇行幸始祭

において厳かに斎行された。 條天皇行幸始祭が十月二十一日午前十時から本殿

幸された日に当たり、 千十年になる昨年、 きたが、昭和二十三年以来途絶えていた。行幸以来 寛弘元年 (一〇〇四)、一條天皇が初めて当宮へ行 約六十年ぶりに行幸始祭として、 長くこの日に祭典が斎行されて



を再興した。 家国民の安寧、 詞を奏上、 なる昂揚を祈 天神信仰の更 一の弥栄と国 橘宮司が祝 皇

# 菅公しのび余香祭

り行われた。 行され、引き続き恒例の献詠披講式が古式ゆかしく執 をしのぶ余香祭が十月二十九日午後二時から本殿で斎 重陽後一日』の名詩を作られた御祭神菅原道真公

その詩に感銘された醍醐天皇から御衣を賜った。 清涼殿での「重陽の宴」に召され、『秋思』の詩を詠まれ 菅公が右大臣の位にあった昌泰三年(九〇〇)九月、

追想され 一年後、 配流先の大宰府で菅公は、 「去年の今夜清涼に侍す 秋思の詩篇独り その時の栄華を

> 腸を断つ を拝す」との『重陽後一日』の名詩を作られた。 恩賜の御衣今茲に在り 捧持して毎日余香

いる。 暦に換算して再興され、以来毎年この日に斎行されて ていたが、大正八年、重陽の節句の旧暦九月九日を新 余香祭は、この故事にちなむ祭典で、久しく途絶え

らが綾小路流の独特の節回しで披講した。 十三首を車座になった向陽会(冷泉為弘会長)の会員 加奈子氏(歌人、同志社大学特別講師)の選による 献詠披講式は、余香祭の日の恒例行事。 「徒然」で、全国から寄せられた献詠の中から濱崎 今年の兼題

は

全員、冠に小菊をかざして祭典・披講式に臨んだ。 神前には黄と白の菊が飾られ、神職・向陽会員らは



### 平成二十六年 余香祭献詠披講選歌

日めくりに書き込む予定限られて 凪である日を過ごすよろこび つれづれに思ふわが身のか弱くも 武曽 豊美

命いとほし秋の徒然

若狭

静

徒然にかき留められしくさぐさは 在りし都のおもかげ伝ふ 仁枝 尚子

やがて花鳥の言を知るなり 心寄する方なき日々のつれづれに 朝比奈 栄子

いにしへ恋ふるつれづれの人 我もまた物思へばとる水茎に 古き家に松影わたる風の音に 田 口 稔恵

かけの垂尾の秋の夜長を もの思はるるつれづれの時 つれづれにものをこそ思へ庭つ鳥 向陽会会員 撰者 濱崎 加奈子 榎户 孝雄

同じそら思ふ人の心は つれづれと雲居ながむるその先の 賀茂御祖神社権禰宜 田中 明仁

あき深み静けき中に虫の声 ぬれてまされる神苑つれづれ いくかへり染めてはきほふ露時 八坂神社禰宜 橋本 正

徒然として物思ひける つれづれと今日かぞふれば千年余り 賀茂別雷神社権禰宜 安井 正明

徒然と聴くやまと言の葉 もの悲しすかはらの音も身にしみて 菅公の稜威あまた思はる 神田神社宮司 向陽会会長 冷泉為弘 平野 修保

### 平成二十七年 献詠兼題

日暮らし待てり傾れ御土居に

北野天満宮宮司 橘 重十九

徒然の木枯らし吹きて落ち葉踏む

月月月 Ĭ.

芋葉 夕凪 花曇 月月 瓜玉頬 月 月

余香 香 祭 月 鹿待襲桃

月 月 祈 刈 り 田

十 御旅所 七

### 神 前 に新穀など供え新 今年の豊作に感謝 祭を斎行 か

に



殿に氏子崇敬者ら約六十人が参列し、 に斎行された。 新嘗祭が十一月二十三日午前十時から本 厳か

中恒例祭典の中の最も重要なものとされて 家の大切な行事として飛鳥時代の皇極天皇 どが供えられ、豊作に感謝するとともに氏 子崇敬者の家内安全・家業繁栄を祈願した。 また氏子崇敬者が丹精込めて作った野菜な されたばかりの白酒を始め、 御代に始まったと伝えられ、現在でも宮 新穀に感謝する新嘗祭の歴史は古く、国 神前には今年収穫された稲穂や白米、 海・川・山の幸、 醸造

### 郁 と菊の 岩下両氏が 献 花

赤 柏

楽しませた。 は本殿の両側に展観され 込めて栽培された菊を献花された。菊花 下友行(同山科区)の両氏が今年も丹精 菊愛好家の小林浩 (京都市左京区)、岩 参拝者の目を







本殿で斎行された。 る赤柏祭が十一月三十日午前十時から 秋から冬へ移り変わる季節の神事であ 赤くなった柏 にご飯を包 の葉

といっしょ 息災を祈願 敬者の無病 に神前に供 氏子崇 クルミ



### 子どもの 参拝 で境内華やぐ

七五三詣

わいを見せ、 秋は七五三詣の季節―。十月から十一月の終りにかけ、 華やいだ風景となった。 境内は七五三詣の子どもたちで賑

たちでごった返す賑わいとなった。洋服姿が多い中、 とくに十月終りごろからはピークとなり、土曜・日曜・祝日は、親に手を引かれた子ども あちこちで参拝者の被写体となっていた。 羽織・袴の男の子や振袖姿の女の子も

たちは、 本殿で神妙な表情で御祈祷を受けた後、 少し照れた表情ながらもうれしそうに境内を歩き回っていた。 おさがりの千歳飴などの授与品を手にした子ども



### 絵馬所で 北野大闘茶会

前十時から絵馬所で開催された。 となっている。 京都市茶業青年会主催)が十月十九日午 てる室町時代に流行した優雅な遊びで 一昨年からお茶との縁が深い当宮が会場 闘茶とは、名を秘した五種類の茶を当 第六回北野大闘茶会(京都市茶業組合

贈られた。 十五点満点中、十一点の高得点をあげた 回ずつ味わい、茶の種類当てを競った。 位の男性に橘宮司から北野天満宮賞が 約三十人が参加し、 粗茶一種類の計五種類の茶を各三 玉露・煎茶各二種



# もみじせ

愛でる参拝 史跡御 土居 者で 連日にぎわった。 もみじ苑」が十一月一日 から開苑され、 美しく色づいた御土居のもみじを

々の奉納 また、十五日からは恒例となったライトアップも始まり、十二月七日までの開苑期間 行事も 行われ、 太閤秀吉公が築いた歴史の舞台は昼も夜も活況を見せた。

### か に目 6 踊 軒 を の舞 妓さん

る日本舞踊の奉納が行われた。 居内の特設舞台において上七軒歌舞会の舞妓さんによ 舞妓さん三人が、ライトに浮かび上がるもみじを背 プ初日の十一月十五日午後五時から御土

席が設けられ、もみじと濃茶の風流を楽しむ人がたく さん見られた。 に「京の四季」「重ね扇」「もみじの橋」の三曲をあで この日から特設舞台に隣接する茶室「梅交軒」で茶 かに舞い、もみじ狩りの参拝者を魅了した。



# 0)

れかがすたら十る た。 る古 柔 一月二十三日午後 術 天神 土 武 居 術 特 四 真 設 流 舞 の 流 演武 台 を で 始 行五 奉 め わ時納

同流を創設した。なびく様を見て奥義を悟り、 参の流江 柔術の と真之 籠 户 柔 後 祈 術 願した際、 期 天 修行をし、 神道流とい の 神 紀 真 、州藩士 楊 流 の 

初何連歌

E, た迫術。真と 手を を投げる とされ、 なく相手を制するの 刀流 という古武術も加わり、 相手の動きに合 浅山 浴 演武奉納を繰り V, 一伝流 て 術 演武を披露し、 組んだ瞬間 いた。 正木流 体術 またこ せ でで、 が極い、 が極い、 が極い、 が極い、 をこ、 相意理 広



れ、盛んに連歌会が張行さ わたって連歌会所が置か当宮は中世から江戸期に れた。奉納された連歌懐纸 て詠んだ作品を奉納した。「賦初何連歌」によっ 連歌会」が十一月三日午後 一時から神楽殿で開 京都連歌の会の か

には「もみじ連歌会」を開催している。 た伝統を踏まえ、 も数多く残されている。 春には「梅ヶ枝連歌会」 京都連歌の会は、こうし

### 奉 納 連 歌

平成二十六年十一月三日 於

北野天満宮神楽殿

執筆 宗匠 関 光 田

表

ふり仰ぐ空より舞ひて細雪かかなく鷲の嶺わたりゆく 引き結ぶ松ふたたびや見む 彩雲を追ひて久しき旅衣 窓をあくれば霜白き庭 いろ見せてあすあさっての後の月丹をささげ持つ杜のもろ枝 冠にかざす野菊や香に高し ふたがみに思ひぞ消えむ詠はねば たとふすべなみ調べあてなる 宮司 ま 重 光り裕和十 代絵雄伸九 満千子 幸子 孝子

節武景敦和 子彦子子行

今こふらくとあやにくもなれ

秋風に黙して焼くや文の東

### 野 天神もみじ寄席



### 才 カリナとギターの弾き語り

Ļ

満員の会場を爆笑に包ん

後五時から御土居特設舞台で行われた。逢世さんによる奉納演奏会が縁日の十 世さんによる奉納演奏会が縁日の十一月二十五日午 阿武野さんのギターの弾き語り カリナ奏者の鈴江先子さんとギター奏者の阿武野



### の錦 神のまにまに」の和歌などは 幣もとりあへず手向山 紅葉 奏するという当宮ではおなじみのに合せて鈴江さんがオカリナを演 奉納演奏会。菅公作の「このたび 神のまにまに」の和歌など 参拝者の耳を楽し

# 三大学の学生によるアンサンブル

六曲を披露し、

拝者が次々と足を止め、 居内に流れ、もみじ狩りの参 特設舞台で行われた。 二十二日午後五時から御土居 生による合同演奏会が十一月 京都府立医科大の三大学の学 ブルで、美しい音色が御土 管楽器や弦楽器のアンサン 京都工織大·京都府立大·



われ、威勢のよい和太鼓の六時から境内や神楽殿で行ったり、いずれも午後回にわたり、いずれも午後回にわたり、いずれも午後の四十五日・同二十五日・同神若会北野天神太鼓会に 音が夜間参拝する人たち

団六・ 四人の落語家が大喜利を披露 た露の真・紫・瑞・棗の若手 作の落語で一席うかがい、 所大広間で開かれた。 月二十四日午後三時から 花家千橘、 中の恒例行事。 史跡御土居「もみじ苑」 露 野天神もみじ寄席」が十一 の五郎兵 新治・吉次が古典や 露の雅・真悟・都 この日 会に よる は ŧ 立



演者

が参列し碑前祭が斎行さ

門の益々の繁栄を祈

初代露の五郎兵衛碑の前同日午後二時から境内に

で出 ある だち

なお、

もみじ

寄席に

先





和太鼓奉 北野天神太鼓

声はげまして渡るうぐひす

歌会のどけく長き春の日

歩みあゆみつただ遠霞吉野山花の色香に誘はれ 更衣をりをり里の風涼し 夏の月にも蛸や汗かく あかあかと漁り火ちらら静かなる 浦の入海小舟たゆらふ 語りつぐ「御法」「幻」萩ゆるる いづくともなく馬子唄聞こゆ 身に入むほどはなほつげたらむ

> 幸子 景誠子三 武彦

風さそふ誇りの青の高々と 庫裏のかまどに煙のぼれり なみなみと注ぐ地の酒の尊さよ 峠に立ちて槍岳あふぐ をろがめばつくれる罪も消えぬらむ ひとすぢみちの奥闇龗 沢蛍ちぢに乱るる夕間暮れ 恋さまざまに世を渡るらむ 立ちにし人のみさを知らるる眺めやり行く雁をしむ旅便り 一間見の面影しのぶ久を経て まり絵 満千子

稔

和節伸子

衣の上に衣こふ冬ぞまざりつ流るる雲に声のひそやか 軒近く植ゑし篁ささめきぬ わがまだ知らぬしののめの 渡りゆく天つみ空の望の月 鈴虫の鳴く夜の街角

露

満千子

光代 裕雄 和行 幸景武子子彦

裏

夕紀子 ま 武裕 経産

海の幸こそ守れあま人

集ふ笑み野辺をにぎはす花舞ひて 谷川の清らなる気も失せにける

まり絵 九 三一四旬旬旬 一三旬 旬 満千子 光代 三三三三句句句

稳武和幸裕 彦行子雄

三四三三四句句句句



# 不の大絵馬、楼門に奉掲

ドをふりまいた。 らの手によって楼門に取り付けられ、早くも迎春ムーらの手によって楼門に取り付けられ、早くも迎春ムー

ら枚数限定で授与される。 未の干支絵馬は、例年通り日本画家の三輪晃久さん 大きなもの。神職・職員らが約一時間がかり で取りつけた。「もうすぐ正月…」と、参拝者は気ぜ で取りつけた。「もうすぐ正月…」と、参拝者は気ぜ で取りつけた。「もうすぐ正月…」と、参拝者は気ぜ なお、この絵馬を小型にしたものが十二月十三日か なお、この絵馬を小型にしたものが十二月十三日か



# 大福梅の授与始まる事始め

大福梅は、元旦に招福息災の祈りを込め、白湯の中の縁起物の大福梅を求める参拝者の行列が出来た。月十三日午前八時から始まり、授与所は初日から正月元旦の祝膳に使われる大福梅の授与が事始めの十二

に入れて頂く、梅とゆかりの深い当宮ならではの縁起

取した梅の実を塩漬け・天日干しにして調製したものに裏白を添え、奉書紙に包んで授与するもの。
平安時代、村上天皇の御代の天暦五年(九五一)、都に疫病が流行し、天皇も病に罹られたが、梅干し入都のお茶を飲まれたところ平癒されたとの故事にちなむもの。庶民もこれにならって元旦に梅干し入りのお茶を飲んで一年の無病息災を願ったと伝えられている茶を飲んで一年の無病息災を願ったと伝えられている本を飲んで一年の無病息災を願ったと伝えられている事の始まり」という参拝者もあり、授与所はひと足早年の始まり」という参拝者もあり、授与所はひと足早年の始まり」という参拝者もあり、授与所はひと足早年の始まり」という参拝者もあり、授与所はひと足早年の始まり」という参拝者もあり、授与所はひと足早年の始まり」という参拝者もあり、授与所はひと足早年の始まり、という参拝者もあり、授与所はひと足早年の始まり、

# 巫女の心得を学ぶ

会開く

ついて学んだ。
初詣参拝者の応接に当たる正月巫女奉仕者の研修会

いた。この後、社務所大広間などで神職から境内の説明をこの後、社務所大広間などで神職から境内の説明をこの後、社務所大広間などで神職から境内の説明をこの後、社務所大広間などで神職から境内の説明を



の光のうつろへば波の花にも秋は見えけり」

都人にとって身近な存在。古来数々の歌に詠まれて来た。「にほの海や月 【評】「鳰の湖」の意味で、水鳥が集まる湖のこと。「近つ淡海」というように、

十月

に

ほ の

うみ

つらつらに思ふ浮き世やにほのうみ とにもかくにもいまの夕風 福井県 武曽 豊美

にほのうみスケッチをする子供等に

大阪府 村島

麗門

秋の茜が近づきて去る

岐阜県 波多野千寿子

我が里の川に放てる雅鮎

みなにおの海辺に育ちしと聞く

鳩のうみ古称のいはれたづぬれば 湖岸に爾保の名の郷ありき

国籍を問ふこともなく鳥たちは

にほのうみにて羽根を休めり

京都市

若狭

静一

愛知県

仁枝 尚子

義仲の夢幻かにほのうみ

朝日とともに消え失せにけり

東京都 白石 雅彦

裕菜

珈琲の苦さ身にしむ夜もすがら

別の生き方問ひページ繰る

沖つ藻のなびく黒髪きらきらと

細波よするにほの海かな

京都市 石山

京都市

夜もすがら尽きぬ語らい杯重ね

囲む友垣結びぞ固き

にほの海銀の波寄す秋の田に

金の波打つ近江うるはし

智野利恵子

清かなる比売の鏡かにほのうみ

風に割かれて光いや増す

京都市

朝比奈栄子

法皇しのぶ秋法住寺

書読める眼上ぐれば夜もすがら 遠き灯ぞ窓にともれる

夜もすがら後の月影歌の家

守る千余の年月語り

感する機会が少なくなっているように思う。古人の歌をひもといて、 【評】冬が近づくにつれ、夜の時間が長くなるという当たり前のことを実 また闇について思いを馳せる時間を作ってみてはいかがだろう。

### + 月 夜もすがら

夜もすがらすだくこほろぎさはがしく 福井県

お手玉や右手回しはやすけれど やるせなきまで鈴虫の声

左はかたし夜もすがらに 大阪府

村島

麗門

九日

午前九時半

若菜祭

こころもとなく夜もすがら看る 岐阜県

波多野千寿子

にはかなる病に夫の倒れしを

夜もすがらにぎやかなりし秋虫も 霜月に入り音いろ落して

愛知県

鈴木

幸子

夜もすがらラジオ深夜のものがたり いにしへびととしばしまみゆる

夜もすがら雨音聞きて明くる日の 京都市

今井

輝子

神户市 齋藤

興哉

雲なき空ぞ大和くはしき

京都市 若狭 静

東京都 白石 雅彦

夜もすがら今様唄ひしそのかみの

長岡京市 智野利恵子

朝比奈栄子

京都市

尚子

二十一日

十五日

一十五日

仁枝

愛知県

# 祭事曆(一月一日~三月三十一日)

月 日 日 午前九時 午前七時 筆始祭 歳旦祭 天満書(午前十時

三日 午前九時 元始祭 奉納狂言(午後一時)猿楽会·茂山良暢社中 家庭書初め(五日まで受付)

神前書初め(四日まで)

武曾

豊美

午前十時 午前十時 末社伴氏社例祭 摂社白太夫社例祭 成人祭

一十五日 十五日 十四日 午前十時 午前九時 月次祭 月次祭 初天神 御粥祭

三十一日 三日 H 午後四時 午前十時 午後三時 書初め 月首祭 「天満書」授賞式 齋祭

夕神饌

月

節分祭 北野追儺式 (午後一時)

追儺狂言 日本舞踊 上七軒歌舞会奉納 茂山千五郎社中

霞祭

四日

午前十時

十一日 午前九時半 紀元祭 地主社霞祭 末社稲荷社

二十四日 一十五日 十五日 午前十時 午後四時 午前十時 梅花祭(中祭式) 梅花祭前夕饌

月次祭

午後四時半

夕神饌 野点茶会(午前十時~午後三時) 上七軒歌舞会奉仕

十二日 一日 午前十時 午前十時 摂社老松社例祭

三月

午前十時 春祭(大祭式) **摂社福部社例祭** 

午前十時 春季皇霊祭遥拝式 摂末社春季祭

午前十時 午後四時半 午後三時半 梅風祭 月次祭 八乙女舞奉納

一十七日 午前十時 摂社宰相殿社例祭

# 玉 一絵巻」を読

同志社大学文学部教授 竹居 明男



ち給へば百度中る」有様で、 せるどころか、「二度放ち給へば二度中り、百度放の弓を引く姿は中国の弓術の名人養由基を髣髴とさに試しに弓を射させてみたのである。ところが、公 と弓の事など知るはずもなかろうと思って、 人々は皆驚くばかりであった。 良香以下、 居合わせた 道真公

申し合ひ侍りける」で結ばれるが、これは道真公が献策しましく、き。京の内の人々、目出たき例にぞ 受験して、 方略試(中国や日本古代における官吏任用試験)を (『菅家文草』所収)や、良香の採点文(『都氏文集』 の問頭博士 この段の詞書は「やがて、 も幸いにして詠むことができる。 見事合格した史実を指している。この時 (試験官)が都良香その人で、 その年の三月廿三日に 公の答案

する 道真公、 都良香邸にて弓射の妙技を披露

良香邸弓遊」 0

段 うとしている、よしもいがして、きな的に向かって、今しも弦を引き絞って矢を放ときな的に向かって、今しも弦を引き絞って矢を放として、よりのです。 かれている。すでに、的の中央には一本の矢が刺さうとしている、片肌脱いだ道真公のりりしい姿が描

物人の姿も目立つ。 三重襷文の直衣に香染めの指貫をはき、扇った端がまれたの公の背後、鋪設された畳の上 間の上下(または左右)にも、 ている人物が良香と思われるが、 っているように見える。 さらには邸内に入り込んできたらしい男女の見的の傍らの矢取と思しい狩衣姿の人物と垂髪のの上下(または左右)にも、居並ぶ良香の門下生いる人物が良香と思われるが、公の的との長い空 扇を手にし に、 浅さ 黄鹭

貞観十二年 (八七〇)、時に二十六歳の春を迎え

たまたま、良香邸に集まった門人たち

門

後に文章博士となった都良香(八三四~八七九)

巻巻

頭には「貞観十二年春陽の頃、

都良香が

予言した、 公の妙技に驚いた良香が「射策鵠に中る徴なり」 やはり縁起文に先行する道真伝…『北野天神御伝』の、れ、本段にもその影響が想定されるが、内容的には、 た『聖徳太子絵伝』における聖徳太子のそれが知ら 去現在因果経絵』における悉達太子(釈迦)の、まこうした弓射の妙技を披露する先行図像に、『過 というくだりに源流があると見られる。

催され 吉祥院にて、 たときの奇瑞にて、道真公五十歳 の賀の法会が

吉祥院 Ŧī. + · 賀 0 段

賎しきも吉祥院に集まりて、 すなわち「寛平六年長月の頃、 にく第二 一段は、 挙に道真公五十歳 五十の御歳の慶びの会 門徒の人々、 心の話題 高きも 心に飛ぶ。



主題とする。 る本段は、公五十歳の祝賀の法会にまつわる奇瑞を せしめける時、 法会の庭の面を見やれば」で始ま

終えて帰京後は宇多天皇の抜擢により、 弁ほかの要職をいくつも兼任していたのである。 五年(八九三)には父と同じく参議に昇進し、左大 道真公の昇進・ あった。ちなみに史実としては、この二十数年間の 四十歳以後十年ごとに高齢の祝賀を行う風習が - 安時代の貴族社会では、当時の 数年間は讃岐守として都を離れているが、任 活躍はめざましく、文章博士となっ 平均寿命 前年の寛平 からし

された氏寺で、 悔する法会)を行なうために、父是善の晩年に創建 統であった吉祥悔過(吉祥天を本尊として罪過を懺ここで舞台となった吉祥院は、菅原家(氏)の伝 き合う多数の参列者を描く。 法会の様相と、 都市南区に鎮座する吉祥院天満宮がそれである。 ってその霊を祀る天満宮へと変貌していった。現京 少僧都勝延(八二七~九○一)を導師とする は吉祥院における法会の有様で、 道真公逝去の後には、子孫一門によ 堂の廊下や階段の下・左右にひしめ 中には僧形も目立って 左端の本堂

方、 右端 の門の内外にも、 多くの僧俗の人々を



「吉祥院五十賀」の段

公特 開別 よみがえる天神信仰 北野天満宮の宝物

別公開 十一月一日から十二月七日まで宝物殿で開 多くの鑑賞者でにぎわった。 一日から十二月七日まで宝物殿で開催さ、史跡御土居「もみじ苑」の公開に合せ『よみがえる天神信仰』北野天満宮の宝(西京神人文書」の重文指定を記念した特

この特別公開では、国

神人に伝来してきた文 権を持っていた北野社の(中世に酒麹生産の独占 た「北野西京神人文書」 久本)」を始め当宮所蔵 宝「北野天神縁起絵巻(承 旬にかけても開催される。 書)が初公開された。 年新しく重文に指定され の数々の宝物に加え、今 なお、この特別公開は



描くが、 姿で、 たかと思うと、何言うこともなく立ち去ってしまっ 願文に沙金を取り添えて、漸う歩み寄りつ^」ある 錦の巻物と袋とを捧げる様子が を集めるかのように、 詞書によれば、彼こそ「藁沓・ その老翁は、堂の前の机に願文と沙金を置 中央の中庭には、 烏帽子に浄衣姿の人物が 含ず はばき 描かれて 何 人かの人々 したる翁 17

る。

された)」をふるったという。読経の声が響く盛大説(富楼那は釈迦十大弟子の一人で、説法第一と称様の主催と称しても同然」と感嘆し、「富楼那の弁したためてあり、導師勝延も「もったいなくも天子 宮中)」よりも道真の限りない長寿を祈願する旨 たという。 その願文を開けてみると、遠く「北闕(= 緊張感みなぎる一 読経の声が響く 瞬である。

が

(つづく)



# ■桜井市の天満神社本殿竣工奉祝祭

宮司が来賓として参列、玉串拝礼した。 同神社拝殿で斎行され、当宮の加藤迪夫権 本殿竣工奉祝祭が十一月九日午前十時から 桜井市河西の天満神社(佐藤高静宮司)の 加藤権宮司が参列

化し、建て替えていた。 ている。建築後百数十年たった本殿が老朽 至るまで代々宮座組織によって執り行われ 中行事帳」に書かれている祭祀が、現在に 約三百年前の「享保元年丙申十年宮座講年 同神社は、 一菅公を祭神とする古社であり、

する宮座講員の皆様方の天神様を思う篤い の新築は、 佐藤宮司、 加藤権宮司が「この度の御本殿 河合淳好様を始めと

挨拶を代読 宮司の祝福の との橘重十九 申し上げます」 ことをご祈念 が発展される 益々天満神社 の賜物。 ならぬご努力 気持ちと並々 今後



〇二 月

奉

### ●平成二十七年年賀はがき 「北野天満宮と梅」がモチーフに

便職員約十五名の参列にて奉納奉告祭を斎 モチーフにした葉書原画を奉納され、十月 賀葉書発行にあたり「北野天満宮と梅」を 行役員近畿支社長)が、平成二十七年用年 三十日午後一時より御本殿において日本郵 日本郵便株式会社近畿支社(德茂雅之執



が華やかに描か 葉書 (京都府版) 附金付絵入年賀 平成二十七年寄 れ、迎春に相応 光門に紅梅白梅 化財である三 は、当宮重要文 しいデザイン。

描かれた画

# ボーイスカウト第八十五団だより

### ●各隊自慢の料理作り

れた。 スにて約二十名のスカウトが参加して行わ りが十一月二日午後一時よりスカウトハウ ブ隊・ボーイ隊合同によるアイデア料理作 宮)の秋の団行事として、ビーバー隊・カ ボーイスカウト京都第八十五団 (本部当

今回は「自慢の創作料理」と題して、各

隊がそれぞれ調 などを競った。 普段は各々隊 味や見た目



る中、有意義な 行事ということ 今回はビーバー・ 団行事であった。 士の交流も深ま カブ・ボーイが ごとの活動だが、 で、スカウト同 一緒に取り組む



った。 鼓奉納を行 日恒例の太 楽殿にて縁 六時から神 鼓会は午後 北野天神太 二十五日 の十二月 終い天神

納で、「翔 りを飾る奉 締めくく 一年最後

縁日で盛り上がる参拝者の耳を楽しませ 龍」「座論梅」などを含む約十曲を演奏し 供たちに和太鼓体験を行うなどの交流を深 た。また演奏の後には、聴きに来ていた子

# 月釜献茶(一月一日~四月三十日)

として発行され

○一月

十五日 献茶祭保存会 松向軒保存会 献茶祭保存会 休 藪内燕庵社中 会 (明月舎)

二十五日 梅交会 紫芳会 休 郡 宗由 (松向軒) (松向軒)

十五 梅交会 松向軒保存会 献茶祭保存会 献茶祭保存会 谷口 藤原 吉岡 宗恵 宗美 宗順 宗嘉 (明月舎) (松向軒) (明月舎) (松向軒)

二十二日

紫芳会

(松向軒)

一十六日

紫芳会

〇三月

日 梅交会 献茶祭保存会 献茶祭保存会 官和会 北野 宗道 宗厚 (明月舎) (松向軒) (明月舎)

二十二日 紫芳会 松向軒保存会 榊 (松向軒) (松向軒)

日 梅交会 献茶祭保存会 未定 大塚 宗香 (松向軒) (明月舎)

○四月

献茶祭保存会 松向軒保存会 木村 宗光 宗圓 (松向軒) (松向軒) (明月舎)

### 神若会だより

●終い天神にて一年の叩き納め

地元の子供たちに和太鼓体験も

いる。

# 思い出





もう一枚は神楽殿前の風景であ 年三月二十五日から五月十三日 出されている。 真には、明治の日本の姿が写し れた。一枚は楼門前の賑わい、 まで五十日間にわたって斎行さ 余年前の大萬燈祭のスナップ写 日露戦争の始まる二年前、百十 千年大萬燈祭は明治三十五 みんな和服に下駄の装い。

楽とは反対の方向を見ているの 神楽殿前で、子どもたちが神 恐らく視線の先に撮影者が

どなく撮影そのものが珍しかった時代である。 いるのだろう。 神楽は久しく途絶えていたが、この一千年祭を機に復活して 一般家庭にカメラ(当時は写真機と呼んだ)な

おり、 典のあった日は百座以上と 楽は総計二千九百二十五座 と賑わいぶりがつづられ いう記録もあり「黎明より 笛 達したという。晴天で式 の音境内に響き渡る 時ごろまで間断なく 期間中奉納された神



# 正式参拝された皆様(敬称略)(十一月~十二月)

<u>+</u> 十月 月 月 十五日 七日 日 烈々布神社氏子総代会 大原天満宮氏子総代並びに 滋賀県びわ南学区氏子総代会 大原天満宮講員

尚史会

神宮研修

<u>+</u> 月 深志神社

+月 国際ソロプチミスト小 田

 $\frac{+}{-}$ 月 尾山神社

<u>十</u> 月 五五 Щ 村神社御伝

 $\stackrel{+}{\scriptstyle -}$ 月 月 十七日 十七日 平安ロータリークラブ 鯖江ロータリークラブ

+ + 月 荏柄天神社総代

+ 月 十九日 岩津天満宮崇敬会

+ + 月 十九日 豊後会

月 士 綴喜神社 総代

二十三日 仏教美術研究会 天神真楊流柔術

四 日 高知県神社庁伊勢神宮

十二月

月 月

新穀感謝祭参拝 耳

十六日 六日 京都府神社庁役員会 東日本ヤクルト協会

### 挙式された皆様 (十月二十六日~十二月三十一日)

新 十月 十月 十二月 郎新婦様、 末永いご多幸をご祈念申し上げます。 二十六日 二十六日 七日 七日 御両家の皆様の 豊川 澤 田 小 石見宗一 林 真吾 禧成・永子 康 郎 祐・くにこ 仁 ·由祈英 加奈子 映 理 ご夫妻 ご夫妻 ご夫妻 ご夫妻 ご夫妻

もって謎とされるところである。

# 天神さんの細道

天神さん七不思議 〈その三〉

## 一の立ち牛

となっている。 5 もに牛にまつわる縁起が多く伝え まつわる話が数多く存在するとと 御誕生であるが、この年は「丑歳」 に当り、 十二年(八四五)六月二十五日の 原道真公(天神様)は、承 牛は天神様の神使 且つ菅公の伝説には牛に (お使い

で御生涯を 延 九州太宰府 (九〇三) 喜三年 中 でも



が已むなくその付近の寺院安楽寺んで動かなくなったため、近習達が 座 り 込 り境内各所にある神牛の像は臥牛に埋葬したのだが、この故事によ 立像の牛があるのかは神秘的で今 当宮では珍しく立った牛の姿の神 牛が刻まれている。何故一 る。ところが、 、横たわった牛)の姿となってい 拝殿欄間の彫刻には、 頭だけ

### 応 永年 北野西京神人文書」より 間の酒屋交名

京都大学名誉教授

譲治

歴史の一

間(一三九四~一四二七)に酒麹役 文書」のうちの一点であり を徴収するために作成された洛中洛 屋請文と同様 の酒屋の名簿である。 の酒屋交名は、 に指定された「北野西京神人 昨年五月に国の 前回 留紹介し 応永年 重 た

とになる。 る。 の酒 酒屋の数はこれよりさらに増えるこ を思わせる箇所があり、 に応永三十三年二月十六日付けで の真ん中あたりの紙継ぎ目に欠落 そこには応永三十二年(一四二五) 一月十日付けで三二五名、その後 ただこの名簿は、 屋の名前が書き上げられてい 総計三四七名の洛中洛外 写であり、 だとすれば 文

る冒頭二人の記載のように、 酒屋交名の表記の仕方は、 近衛高倉東北頰 次にあ

六条坊門室町東北 在判 在判

後略)

隆重

が記されている。 在 地を記し、次行に酒屋の名と判と 右肩に通称あるいは受領名と所 (写真参照

> その数を示したものであるが、これ を東西の通ごとに北から南へと順に ことがわかる。 まで広く展開しているが、 か見られない。左表は、 ほとんどがあり、 は大宮から東京極大路の間の左京に この酒屋交名によれ によると酒屋は、一条通から六条通 一条通から五条通により多くあった 右京には 当 酒屋の展開 なかでも 時 わずかし 酒

北野四軒、仁和寺四軒、 建仁寺二 、そのほか清水六軒、今熊野五軒、 洛外では、 粟田口 嵯峨の一 六軒が際立つ 法性寺三軒 岡崎二軒

> 南禅寺、 だけでなく洛外における町場の 西南頰一軒、北野南大路東南頰二 北野今在家北西頰 やその繁栄の様子の一 また麹座のあった西京でも 聖護院、三聖寺、 一軒の計四軒 北野北· 当時 賀茂各 端を示 の洛 大

があり、 軒を数えることができる。 してくれており、酒屋請文とともに 保北頰に一軒あった。 開 このように酒屋交名は、 ちなみに北野周辺では、 めて貴重な史料である。

世門立己

【表】洛中の酒屋、通別分布	
通名	軒 数
一条	9
正親町	3
土御門	7
鷹司	8
近衛	8
勘解由	11
中御門	9
春日	8
大炊御門	10
冷泉	11
二条	10
押小路	6
三条坊門	8
姉小路	6
三条	15
六角	9
四条坊門	8
錦小路	13
四条	21
綾小路	11
五条坊門	16
高辻	8
五条	22
樋口	8
六条坊門	2
楊梅小路	4
六条	10
左女牛	1
七条坊門	0
北小路	0
七条	6
[ I II	

塩小路

酒屋交名(巻首)

### 

れています。

美しや 紅の色なる

梅の花

菅公は、幼少より学問に励み、「和魂漢才」の心をもっ

情緒豊かな和歌を詠み、格調高い漢詩を多く作ら



## 毎さ天開ん神

50種類、約1500本の梅が咲き競う、紅梅、白梅、一重、八重……。

### 梅苑公開

大人=600円(中学生以上) 小人=300円年前1時~午後4時4で(権系・菓子付)

1月10日~3月下旬 1月10日~3月下旬 2 物殿特別展開催 宝物殿特別展開催



梅花祭 <sup>##27#</sup> 2月25日(\*) [祭典] 午前10時~午前11時まで [野点茶会] 午前10時~午後3時まで 野点拝服券=1,500円 生

### (臺) 北野天満宮

まれます。
ら三月下旬にかけて境内一円は梅の馥郁たる香りに包輪と花を咲かせます。そして見頃を迎える二月上旬か輪の木があり、早いものは一月頃から一輪また一

秀吉公が都の整備に築いた土塁)も同時公開します。また、開苑期間中は隣接する史跡「御土居」(太閤

◎入苑拝観料/大人=六○○円・こども=三○○円◎入苑時間/午前十時~午後四時◎公開期間/平成二十七年二月上旬~三月下旬

観梅者で賑わいます。

当宮の梅苑は全国屈指の景勝地として、毎年多くの

境内神域には五〇種一五〇〇本

ています。

かりの梅が、春の訪れを知らせるかのように咲き誇っ

菅公は梅をこよなく愛されました。

境内には菅公ゆ

あこが顔にも つけたくぞある

# 平成二十七年二月二十五日 「祭典」午前十時~午前十一時 「野点茶会」午前十時~午前十一時 「野点茶会」午前十時~午前十一時 「野点茶会」午前十時~午後三時 「野点茶会」午前十時~午後三時 「野点茶会」午前十時~午後三時 「野点茶会」午前十時~午後三時 「野点茶会」午前十時~午後三時 「野点茶会」午前十時~午後三時 「野点茶会」午前十時~午後三時 「時に祥月命日に当たる1月二十五日は「梅び、特に祥月命日に当たる1月二十五日は「梅び、特に祥月命日に当たる1月二十五日は「梅び、特に祥月命日に当たる1月二十五日は「梅び、特に祥月命日に当たる1月二十五日は「梅び、特に祥月命日に当たる1月二十五日は「梅び、特に祥月命日に当たる1月二十五日は「梅び、特に祥月命日に当たる1月二十五日は「梅び、特に祥月命日に当たる1月二十五日は「梅び、特に祥月命日に当たる1月1日では「神人の世界」では「神人の世界」でいます。



今年は元旦から

祈る習慣が根付

いている。

約六十年ぶりに授与を復活させた。 授与して 思 大萬燈祭 か  $\bigvee$ との声 ねて 年の初天神で約六十 のまま」 から  $\bigvee$ た経緯 が崇敬者から強く寄 昭 を今年 「剪定された御神 和二 があっ + は 七年) 元旦からの たことから、 年ぶりに復活し の年に せられており、 木の枝を授与 授与。 初 昨 天神で参 年の た招福 初 天神で 拝者に 千五十 の梅枝 て IJ

ウタンを取りつけ、 る特殊神饌の調製に 思いのまま」には、 用 いる厄除けの玄米が入っ 菅公を偲ぶ梅花祭で神前 に供 た ヒ え

0)

願いを込めている。

せを呼んでほしいと 家庭に春の訪れと幸

間の災厄を祓い、 によって伝統 0) 午後 「北野追儺狂 以来、 ど四社寺を参拝して無病息災 は から威勢よく豆をまく。 時から神楽殿 当宮は京都の 狂言師と芸舞妓が神楽殿 踊 一軒歌舞会の芸舞妓による日 でも篤い信仰 「四方詣の の守り神として創建さ の奉納もあり、 災難よけ・ 言 り」と称して当宮な が ※で茂山 奉納され が 乾 厄除 あ n, 最後に出演 北 千 け る。 · 五郎 節 0) 西

0)

上

本

社

上

中

二月三日、 午前十 時 から本殿で節分祭を斎行、 年

御縁日 境内ライトアップ

社と 分に

れて

0



毎月25日は天神さんの御縁日。 夜9時まで境内特別ライトアップ!

### 定期購読のお知らせ

- ●定期購読 1,000円(1年分) 季刊·年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合 は無料発送。
- ●お申込み・お問い合わせは、社務 所まで。



### 平安京

当宮は平安京の乾に位置し、古くよ り天のエネルギー、パワーの働く北野 の地に祀られています。

平安京の内裏、大極殿北西に位置し 三光門の真上に北極星が輝き、天子様 が北極星を拝する聖なる社でした。

平安京の大極殿 (遷都より 600 年の間) は今の京都御所の西にありました。

紙屋川、堀川に挟まれ、すぐ北西に 当宮が建てられています。



大極殿 (室町時代迄の平安京 京都御所(室町時代以降)

